

# プロとつながる遠隔キャリア教育を通してふるさと愛を育む学習活動の実践

地域の特産を使ったご当地バーガーのアイデア発表を通して

日之影町立日之影小学校 教諭 田中 晃貴

キーワード：小学校，高学年，家庭科，総合的な学習の時間，遠隔

## 実践の概要

モスフードサービス（モスバーガー）の方に対して、Web 会議システム「Zoom」を活用し、地域の素材を生かしたご当地バーガーのプレゼンテーションを行った。ふるさとのよさを再確認し、さらにプロの方からの評価を受けることで、満足度の高い学習活動となった。

### 1. 目的・目標

#### (1) ICT 活用の目的とねらい

本校は、中山間地域に位置する全校 30 名の小規模校である。学習においては、意欲的に取り組むことができるが、自分の意見や考えを発表することに苦手意識を持つ子が多かったため、自信をもって発信する力を伸ばしたいと考えた。外部の方とつながる学習活動を行うことは効果的で、ICT を活用することにより、コロナ禍における 3 密・対面を避けること、移動時間の削減等のメリットがあった。また、インターネットでふるさとの特産品などを調べることを通して、ふるさとの情報がどのように発信されているかを調べる活動は、ふるさとの良さを改めて見つめ直す契機になると考えた。さらに、タブレット PC が児童 1 人に対して 1 台整備されている環境にあり、タブレット PC を活用した情報収集や制作活動に対して、熱心に取り組む児童も多く、この活動が、総合的な学習の時間のねらいでもある「自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てること」にもつながると考えた。

### 2. 実践内容

#### 2.1 栄養のバランスの大切さについて知る（家庭科）

栄養のバランスをとることの大切さや献立の組み方を「食事バランスガイド」や給食の献立を元に考えた。農

林水産省の出している食事バランスガイドを活用し、ハンバーガーは、主食（パン）、副菜（レタス）、主菜（パティ）が合わさっており、乳製品や果物をサイドメニューで選ぶことで、栄養のバランスをとることができる食品だということを知った。

#### 2.2 ふるさとの素材を集め、ご当地バーガーを考える

グループごとにコンセプトを決め、どんなご当地バーガーにするかを考えた（図 1）。ふるさとの素材だけでなく、生産者まで考えることで、地域の素材をより深く見詰め、地産地消の大切さまで考えることができた。コンセプトは、「おいしい×地元応援」などグループごとに工夫が見られた。児童の周りには、牛を飼っている方や野菜を生産されている方が多く、どのグループもご当地バーガーに使いたい地域の素材をすぐに考えることができた。地域の素材をどう使うか、組み合わせはどうかと熟考する姿が見られた。さらに、サイドメニューを考えることにも挑戦する意欲も見られ、栄養のバランスに注目し、足りない栄養を補う選択をしていく話し合い活動も見られた。



図 1 児童が考えたワークシート

学習活動	児童の活動	指導上の留意点
●指導目標/自分達でご当地バーガーを提案する活動を通して、ふるさとのよさを見つめ直すとともに、情報を発信する力を高める。	講師の方と簡単な挨拶を行う。	遅延や乱れがないか確認し、じゃんけん等のアイスブレイキングを行う。
●評価/ふるさとの特産品について知ろうとしている。グループで協力しながら、アイデアをまとめている。自信をもって発表できるように準備をしている。	グループごとに、ご当地バーガーをプレゼンする。	用意したポスターや練習した工夫を生かして、堂々と発表させる。
【指導略案】 ●単元指導計画（全体時間 7 時間） (1) 栄養のバランスの大切さを知る。（家庭科 1 時間） (2) ふるさとの素材集めをする。（総合 1 時間） (3) ご当地バーガーのアイデアをまとめる。（総合 1 時間） (4) ご当地バーガーを PR する架空のポスターをつくる。（総合 1 時間） (5) プレゼン発表の練習をする。（総合 1 時間） (6) プロの方へプレゼンをする。（総合 1 時間） (7) 学んだことをまとめる。（総合 1 時間） ●本時の目標と展開 令和 3 年 6 月 児童数 13 名 自分達の考えたご当地バーガーをプロにプレゼンしよう。	モスバーガーの方からコメントをいただく。	必要に応じて、メモをとらせる。
	モスバーガーの方へ質問をする。	事前に質問を考えさせておく。
	本時のまとめをする。	本時を振り返り、次時は、学んだことをまとめることを伝える。

### 2.3 ご当地バーガーのポスター作りをする（写真1）

「Adobe Spark」を活用して、自分たちの考えたご当地バーガーをPRするポスターを制作した。事前に、実際に店頭やCMで見かけるモスバーガーのポスターについて調べることで注目を引く構成の工夫等に気付き、自分たちのご当地バーガーについて、写真や文字、マークのレイアウト、色合いなど各グループの工夫を凝らした作品に仕上がっていた。また、タブレットPCを活用することで、手軽に本格的なポスターを仕上げる事ができた。



写真1 児童が考えたポスター

### 2.4 発表・プレゼン練習を行う（写真2）

グループごとに、プレゼン練習を行った上で、Teamsを活用し、実際に画面にどう映るかを確かめる活動を行った。実際に画面に映る姿を見ることで、発表に動きをつけたり、その動きを大きくしたりした方がより相手に伝わりやすいことや、話すスピードや言葉遣い、資料の見せ方についても改善することができた。



写真2 プレゼン練習をする児童

### 2.5 プロにプレゼンを行い、評価をいただく（写真3）

ビデオ通話システム「Zoom」を活用し、つながったモスバーガー、モスフードサービスの方々へ自分たちのご当地バーガーをプレゼンした。練習の成果を発揮しながら相手を意識して資料を見せたり、動きを工夫しながら堂々と話したりすることができた。また、プロの方々に評価をいただき、笑顔が見られた。質問に答える場面では、自分の考えを表現しながら丁寧に受け答えをする姿が印象的だった。また、職業についても質問をして、話を聞くことができ、キャリア教育の観点からも有意義な

時間となった。



写真3 ポスターを使い、プレゼンをする児童

## 3. 成果

児童の感想より

- ・ご当地バーガーを作って、友達と協力することの大切さを感じました。みんなで相談し合いながら楽しくできました。実際にプロの人にハンバーガーのよさを紹介することができ、すごくよい機会となりました。またやりたいです。
- ・本番当日は、少し緊張したけど、上手に紹介できました。モスバーガーの関係者の方々にもコメントをいただいて、とてもうれしかったです。モスバーガーがもっと好きになりました。

子ども達にとっては、遠隔地とつないだ学習が初めての経験だったので、どうなるか不安だったが、画面を通してつながるからこそ、相手により分かりやすく伝えるための工夫を活発に話し合えたと思う。また、プロの方にアイデアを提案し、コメントをいただくことは、普段経験できない貴重な時間となり、喜びも大きかったようだ。さらに、ご当地バーガーの素材探しという活動を通して、ふるさとのよさを改めて感じる事ができたようだった。さらに、他にもアイデアを考えて、別の人に紹介したいという発言から、苦手だった自分たちの考えを発信していくことに前向きになる様子も見られた。また、本校のように、中山間地域の学校にとっては、ICTを活用することですぐに外の世界とつながることができ、大変有意義だと感じた。

## 4. 今後に向けて

ICTを活用することで、自信をもって自分の考えを発表したり、課題に対して友達と協力しながら挑戦したりする姿が増えた。今後は、専門的な知識をもつ方や地元の方々につながる仕組みを整備していく必要があると感じた。また、教科の枠を越えた横断的なカリキュラムマネジメントを含めて、指導計画を工夫していく必要がある。何よりやってみようと挑戦することがICT活用の大きな利点だと感じたので、さらに、効果的なICTの活用法について研究を進めていきたい。